

本調査は、幼稚園児・保育園児をもつ家庭での子育ての実態、およびしつけや教育に関する保護者の意識をとらえることを目的に実施している。1997年と2003年にも同じ目的で調査を実施しており、経年での比較ができるよう配慮して今回の調査を設計した。

また、本調査に先立って、2007年には、小学1年生から中学3年生の子どもをもつ保護者にも同様の調査を実施しており、今回の調査結果とあわせることで12学年にわたる保護者の子育ての変化を追うことができる。

本調査の特徴は、以下のようにまとめられる。

1. 時代による変化を把握することができる

本調査は、時系列で調査することを目的として企画している。質問項目は、社会や教育環境などの変化に応じて多少の追加・削除はあるが、ほぼ同一のものを使用している。

*1997年調査は、調査対象が2003年調査および今回の調査と異なることから、経年での変化をみる際には、幼稚園・保育園に通う年少児～年長児の保護者を抽出して比較した。

2. 幼稚園児・保育園児の学年による違いを把握することができる

今回の調査は、年少児～年長児の保護者を対象としており、子育て生活の実態、しつけや教育に関する意識が、学年ごとにどのような違いがあるのかをとらえることができる。

3. 地域による子育ての違いを把握することができる

今回の調査では、地方市部、地方郡部の保護者にも調査を行っており、地域による子育ての違いを把握できる。

4. 子育て環境の変化にあわせて、新規項目を追加している

子育て環境の変化を考慮して、子育ての実態をより具体的にとらえるために、幼稚園・保育園に関することや父母の帰宅時間、家庭の経済的なゆとりなどの新規項目を追加した。

1. 調査テーマ

幼稚園児・保育園児をもつ家庭での子育ての実態、およびしつけや教育に関する保護者の意識をとらえる。

2. 調査方法

幼稚園・保育園通しによる家庭での自記式質問紙調査

3. 調査時期

第1回調査 1997年9月～10月

第2回調査 2003年9月～10月

第3回調査 2008年9月～10月

4. 調査対象

【第1回調査（1997年調査）】

首都圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）の幼児（1991年4月2日～1994年4月1日生まれ）と小学校1、2年生をもつ保護者4,766名（配布数21,000通、回収率22.7%）。

※このうち、経年比較をする際には、幼稚園児・保育園児をもつ母親（2,478名）のデータを用いた。

※第1回調査は、郵送法により実施した。

【第2回調査（2003年調査）】

首都圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）、地方都市（四国地方の県庁所在地）、郡部（東北地方）の幼稚園児・保育園児をもつ保護者4,471名（配布数6,121通、回収率73.0%）。

※このうち、分析は首都圏の母親（3,477名）のデータを用いた。

※幼稚園・保育園（首都圏）計44園にご協力いただいた。内訳は以下のとおり。

幼稚園…21園、保育園…23園

【第3回調査（2008年調査）】

首都圏（東京都、埼玉県、千葉県、神奈川県）、地方市部、地方郡部の幼稚園児・保育園児をもつ保護者6,131名（配布数8,238通、回収率74.4%）。

※このうち、分析は首都圏の母親（3,069名）を中心に行った。

※地方市部・母親（1,743名）、地方郡部・母親（1,072名）のデータは、地域間比較を行う際に用いた。

※地方市部と地方郡部の幼稚園・保育園は、市区町村の人口規模、および人口密度を考慮した有意抽出法により抽出した。第2回調査の地方データとは抽出方法が異なるため比較しない。

※幼稚園・保育園 計85園にご協力いただいた。内訳は以下のとおり。

首都圏 合計…36園 幼稚園…20園、保育園…16園

地方市部 合計…26園 幼稚園…15園、保育園…11園

地方郡部 合計…23園 幼稚園…11園、保育園…12園

5. 調査項目

子育ての悩みや気がかり／しつけや教育の情報源／子どもとのかかわり／子どもの日ごろの様子や生活習慣／子どもの生活習慣やしつけへの満足度／家庭でのしつけや教育方針／幼稚園・保育園選択／園で過ごす時間／園に期待すること／園への満足度／希望する進学段階／習い事／教育費／母親自身の生活満足度／配偶者との関係／子育ての楽しさ／子育てやしつけに関する意識

※調査項目は、経年比較が可能のように配慮したが、時代の変化に合わせて、追加・削除などの変更を行っている。

分析の枠組み・サンプル数

本報告書では、経年比較をする際には、首都圏の母親のデータのみを用いた。2008年調査では、地方市部・地方郡部での調査も行っており、地域間比較をすることが可能である。

分析の枠組みとサンプル数は、以下のとおりである。

		年少児	年中児	年長児	不明	合計
経年比較	1997年 首都圏・母親	641	955	879	3	2,478
	2003年 首都圏・母親	752	1,332	1,370	23	3,477
	2008年 首都圏・母親	767	1,115	1,141	46	3,069
	2008年 地方市部・母親	439	632	659	13	1,743
	2008年 地方郡部・母親	257	372	425	18	1,072

(名)

調査対象となった保護者の内訳は、以下のとおりである。

1997年調査 首都圏：母親2,478名、その他（父親や祖父母など）61名、不明13名

2003年調査 首都圏：母親3,477名、その他（父親や祖父母など）102名、不明58名

2008年調査 首都圏：母親3,069名、その他（父親や祖父母など）90名、不明15名
 地方市部：母親1,743名、その他（父親や祖父母など）77名、不明5名
 地方郡部：母親1,072名、その他（父親や祖父母など）54名、不明6名

※本報告書では母親のみを分析対象とした。

※本報告書では、学年の呼称を「年少児、年中児、年長児」と省略した。その内訳は、以下のとおりである。

年少児：年少児または3歳児クラスに通う子ども

年中児：年中児または4歳児クラスに通う子ども

年長児：年長児または5歳児クラスに通う子ども

※調査概要に示したとおり、第1回調査は郵送法により実施しており、第2回調査、第3回調査とは調査方法が異なる。したがって、第1回調査の結果は参考値として扱う。

※本報告書では、第1部の第1～3章、第2部の第1章は、首都圏のデータのみを用いている。第1部の第4章、第5章の第1節、第6章の第5節、第2部の第2章は、地方市部、地方郡部のデータも用いている。

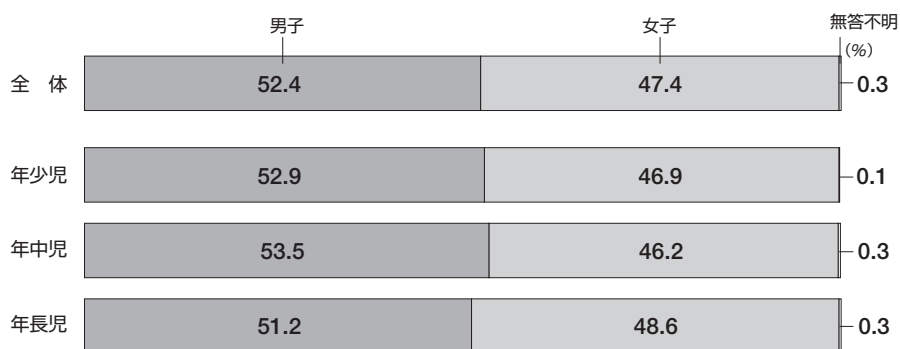
※本報告書で使用している百分率（％）は、有効回答数のうち、その設問に該当する回答者を母数として算出し、小数点第2位を四捨五入して表示した。四捨五入の結果、数値の和が100にならない場合がある。

基本属性

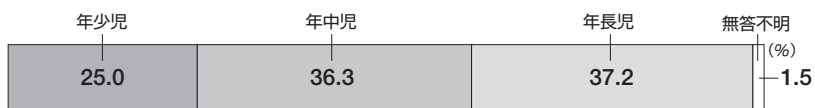
ここで説明する基本属性は、分析の中心である首都圏の幼稚園児・保育園児をもつ母親3,069名を母数とした数値である。地域別の基本属性については、第2部第2章を参照されたい。なお、各章で経年比較をする際には、基本属性の違いを考慮して分析を行っている。

A 子どもの属性

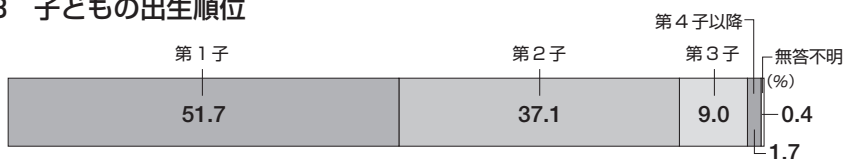
図A-1 子どもの性別（学年別）



図A-2 子どもの学年



図A-3 子どもの出生順位



図A-4 子どもの就園状況



B

保護者の属性

図 B-1 父親・母親の年齢分布

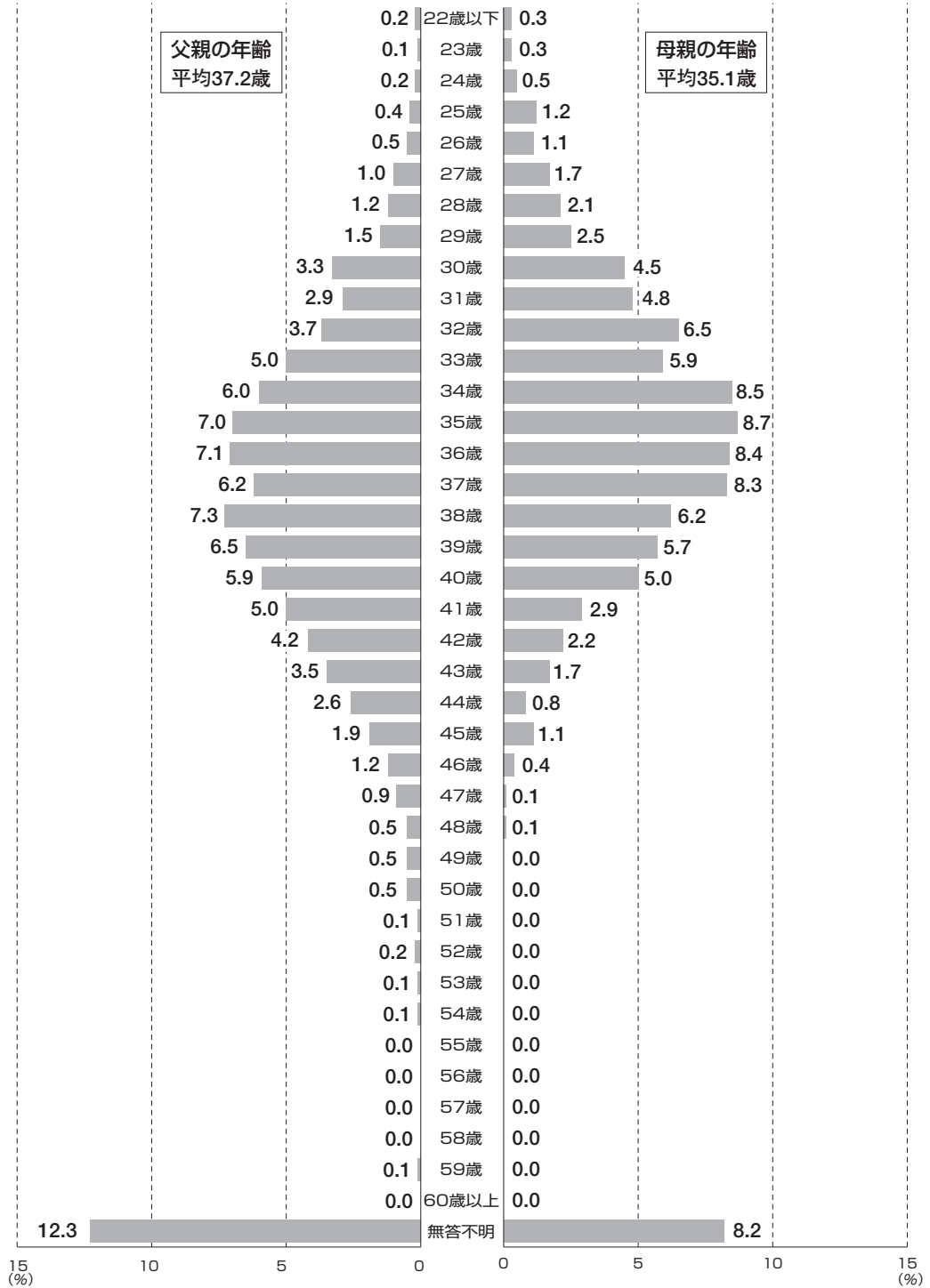


図 B-2 父親の職種

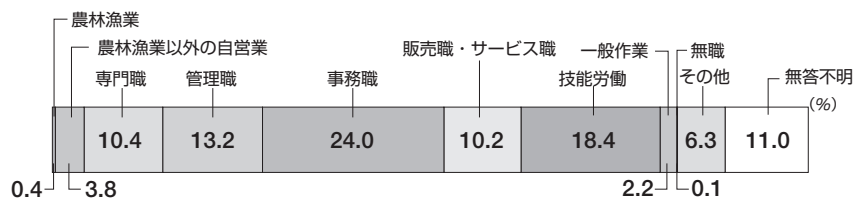


図 B-3 母親の就業状況（経年比較）

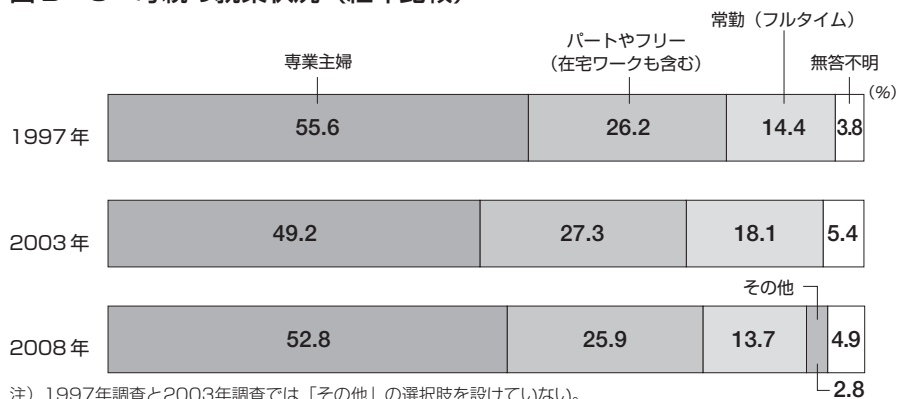


図 B-4 父親の最終学歴（中退も含む）

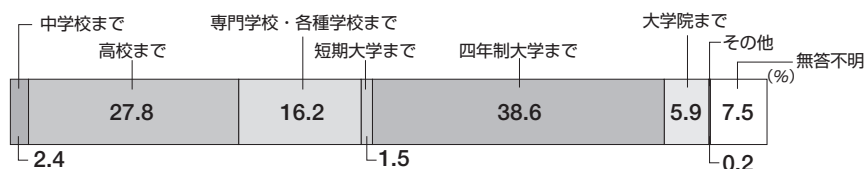
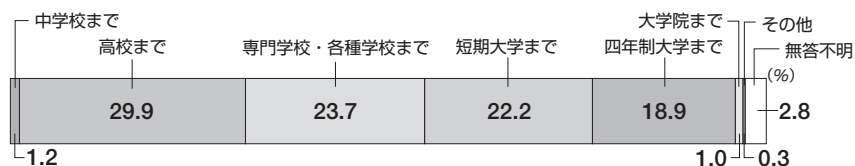


図 B-5 母親の最終学歴（中退も含む）



C 家庭環境

図 C-1 家族構成



図 C-2 生活の経済的なゆとり

